

札幌地区 教育経営研究会

(兼 札幌市小学校長会 10月研修会)

1 目的 北海道小学校長会・北海道中学校長会、及び地区校長会が抱えている教育経営上の具体的な課題を基にした共同研究主題及び各専門部の研究副主題に関する研究実践の成果を発表し、会員の職能向上を図り日常の学校経営に反映させると共に、校長の役割と指導性を究明し、札幌市の学校教育の活性化に資する。

2 主催 北海道小学校長会

3 主管 札幌市小学校長会

4 日時 令和5年10月16日(月)

5 会場 ホテルライフオーソ札幌

6 参加者 札幌市小学校長会(188名)

7 日程 12時50分～13時20分 受付
13時30分～13時50分 開会式
13時50分～14時35分 学びの支援部 提言・協議
14時35分～15時20分 教育環境部 提言・協議
15時20分～15時30分 休憩
15時30分～16時15分 人材育成部 提言・協議
16時15分～16時25分 閉会式

8 開会式 ○会長挨拶 札幌市小学校長会 会長 徳田 恭一
○会長挨拶・情勢報告
北海道小学校長会 会長 森田 智也
○委員長挨拶
札幌市小学校長会共同研究推進委員会 委員長 島貫 静

9 研修会

(1) 学びの支援部

提言1 「通常学級で配慮を要する児童への指導の充実」

・「持続可能な児童支援のための学校組織の工夫」と「一人一人を大切にするための児童理解の充実」の視点から、児童に対して切れ目ない支援を進めることを目指す取組について考える。

提言2 「特別支援学級・通級指導教室での指導の充実」

・特別支援学級の教育課程、通常学級担任との連携面、指導力向上面から課題を見だし、改善に向けた校長の指導性を考える。

提言3 「不登校児童への対応」

	未然防止のために	不登校状態の改善に向けて	登校再開後に
児童に			
家庭に			
教職員に			
外部機関との連携			

・左記のマトリックスで考えてきた不登校対応について、校長の果たす役割と指導性を再検証する。

(2) 教育環境部

部全体を通して、「実態把握」「課題の発見」「危機への管理」「統括と決断」「成果の見極め」の手順で校長の役割と指導性を発揮する。

提言 1 「外部改修及び校内環境改善に係る校長の役割と指導性」

校舎改築等の環境整備に伴う工事を行う場合は、関係する教職員から情報収集することに加え、自らも実態把握に努め、課題や危機への管理を考え取組を進めていくことが大切であること。教育活動への影響を考えながら、工事関係者や教職員等に積極的に関わり、統括や決断を行ったり、成果を見極めたりすることが大切である。

提言 2 「ICTの効果的な活用に向けた校長の役割と指導性」

組織的な推進体制づくりを進めるには、実態の正確な把握と校長としての確かな決断につなげる的確な分析が必要。ICT活用の進捗状況には、少なからず差が生じていて多くの課題を残している学校が少なくない。校長は、それぞれの学校事情から自らの役割を自覚し確かな指導性を発揮して課題解決に向けた体制づくりを進めていくことが急務である。

提言 3 『小中一貫した教育』と『地域連携』における校長の役割と指導性」

「小中一貫した教育」や「地域連携」を推進するには、まず、校内の体制を整えることが大切である。管理職主導のスタートになる部分もあるが、取組における児童の育ちを成果として価値付けることで、教職員の意欲と理解が深まる。その上で、教職員主体で推進する組織となるようコーディネートしていくことが求められる。

提言 4 「校舎内構造上の問題から考える危機管理における校長の役割と指導性」

心張棒が使えない教室の不審者侵入時の避難、インターフォン越しの来客の見極め、火災時の避難の仕方等について、様々な場合を想定し、けが人を出さず安全に行うことができるよう、定期的に危機管理について見直しを図り、より良い方法を探る必要がある。

(3) 人材育成部

提言「自ら学び続ける教員の育成について」

どの学校においても「研修などを通して刺激を受ける」場を設定してきたが、大事なのは外部からの刺激を与えた後だった。「自分を見つめ直し、成長のための行動をとる」「自分の成長の手応えを感じ、自ら学ぶ意志をもつ」といった過程を位置付け、実効性を高めていくためには、どのようなことが必要かを明らかにしたい。そのために、以下の討議の柱で協議することにした。

- ・「外部からの刺激」を「問題意識の芽生え」や「行動」につなげるために、校長は何をするのか。
- ・行動したことへの手応えを実感させ、自発的な行動を促すために、どのような評価をしていくのか。

札幌市校長会の研究サイクルは2年間で、1年目に研修会、2年目に研究大会にて研究成果の共有を行っている。さらに、6つの専門部を3部ずつ2月グループと10月グループに分けている。本研修会は、10月グループの「学びの支援部」「教育環境部」「人材育成部」が、各15分の提言を行い、それぞれの提言に対し30分間のグループ協議を行った。今回は初めて会場で開催した。各テーブルに6つの専門部員が入るようにし、10~11名程度の人数で行った。グループ協議を少人数で実施したことにより協議がしやすく、活発に意見交流が行われていた。また、「校長は、自分一人だけではない。日々奮闘している仲間が大勢いる。」ということを確認し合う場にもなっていた。